



メディアへの期待
アムダ代表ら語る

岡山の新聞大会

岡山市内で17、18両日開かれた「第59回新聞大会」(日本新聞協会主催)で、同市に拠点を置く国際医療NGO「AMD A(アムダ)」代表の菅波茂さん(59)と、

市出身のマラソンランナー有森裕子さん(39)が講演。それぞれ体験からメディアへの期待を語り、マスコミ関係者ら約530人は真剣な表情で聞き入った。

菅波さんは「人道支援におけるメディアの役割—AMD Aの経験を通じて」と題して講演。他国で支援活動をする時は、相手に「なぜ助けるのか」が十分伝わることが大切と説き、「AMD Aは『困ったときはお互いさま』という相互扶助の精神を中心に据えている」と説明した。

メディアが「ボランティア」などの言葉を国民に定着させたことで、自分たちの支援活動に対しても「売名行為」と言われなくなっ

たと振り返り、「今後も民間の活動に、様々に協力してほしい」と呼びかけた。また、有森さんは「よろこびを力に……」と題して話した。子どもたちのころ、大会の記録を載せた小さな記事に自分の名前を見つけたのが励みになったといい、「子どもたちがあこがれを持ち、未来に希望が持てるような報道を」と語った。さらに、1998年の長野五輪の際、自らの結婚が五輪報道より大きく扱われたことにも触れ、「何が大切なのか。何が人間を育てるのかを一步引いて考えて」と訴えた。



記念講演するAMD Aの菅波代表

AMD Aの菅波代表